

令和5年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470901271	事業の開始年月日	平成17年4月1日
		指定年月日	平成17年4月1日
法人名	社会福祉法人若竹大寿会		
事業所名	グループホームわかたけ小机		
所在地	( 222-0035 ) 横浜市港北区鳥山町1031		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和6年1月28日	評価結果 市町村受理日	令和6年4月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自分らしく輝いて暮らせるホームをめざす」という理念のもと、「マズローの5段階欲求」に照らし合わせながら、ご入居者一人一人の欲求を満たすことができるように支援している。ご入居者が、持っている力を十分に発揮し、意思を尊重され、輝いて暮らすことができる為にも、ご家族様との情報共有は必須であり、ご面会時やイベント配信時で積極的にコミュニケーションを取っている。理念に沿ってケアを継続する事で、行動・心理症状(BPSD)が軽減していき、穏やかに生活できるようになっていくプロセスを経験することで、職員もやりがいや喜びを感じ、前向きに取り組む姿勢が生まれている。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和6年2月29日	評価機関 評価決定日	令和6年4月16日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

**【事業所の概要】**  
当事業所は、JR横浜線小机駅から徒歩7分程、間近に、日産スタジアムが見え、サッカーの試合時には大きな歓声が聞こえてくる場所に位置している。春には桜の花が咲くスタジアム脇の河川敷は、四季を通して、地域住民の散歩コースになっている。周辺は畑や小さな工場、自動車会社の車(商品)置き場等が混在している。事業所の敷地は広く、軽量鉄骨造の建物は、玄関を中心に左右に各ユニットを配置した開放感のある作りになっている。玄関先や庭には四季折々の花々が咲き、季節感を演出している。

**【職員の個性や特性を生かしたレクリエーション】**  
各ユニットごとに、職員が得意な事を生かした行事を年間行事計画に取り入れ、予算をつけて、企画、準備、実施の一斉を担当職員に委ねている。今年度は、お菓子作りを得意としている職員が、喫茶店を模したリビングで、季節の行事にちなんだ手作りスイーツと、豆を挽いて入れた本格的なコーヒーを利用者に提供し、喜ばれた。また一方のユニットは、職員が板前に扮して、リビングを居酒屋や回転寿司店を模して、料理を提供している。

**【動画撮影を取り入れた避難訓練の実施】**  
夜間を想定した避難訓練では、寝たきりの利用者を夜勤者1名で避難させる訓練を実施している。利用者に扮した職員をベッド上から事業所の外部の安全な所へ避難させるためにマットごと利用者をベッドから降ろし、窓の外へマットを移動させる訓練の様子を動画に納め、訓練後に、動画を見ながら職員間で話し合い、課題や問題点を洗い出して、改善につなげている。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームわかたけ小机
ユニット名	月ユニット

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
	○	3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
	○	3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
	○	3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
	○	3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
	○	3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしく輝いて暮らすホームを目指す」理念を念頭に、各ユニット毎に1年間を通じて「自分らしく輝くとは何か」をテーマに、ユニット目標を立てケア支援をしている	管理者は、職員の認知症への理解がそれぞれ異なる事に着眼して、理念である「自分らしく輝くホーム」について、どのように捉え理解しているか、職員間で話し合う機会を設けた。また法人理事長から、コロナ禍でも家族への接遇や事業所の環境整備に日ごろから抜かりなく取り組むようにという話があった。それらを受け、事業所として取り組む事柄を具体的に現した「事業所の大事にしたい大切な事」を作成し、職員間で共有して、理念の実現に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染予防対策のため、外出や地域イベント参加は見送っていたが、コロナ感染5類後は地域スーパーへの買い物回数を増やすなど行った	事業所周辺は日産スタジアムに隣接する環境下のため、車の保管場所等や倉庫が点在している。近隣には民家がなく交流は難しいが、町内会から届く回覧板で地域情報を得ている。町内会長が会費の集金に訪れた時には、情報提供を受けている。利用者と一緒に近くのスーパーマーケットや大判焼店への買い物を兼ねて散歩をしている。地域交流の機会がないため、少しでも社会参加をしている気分が味わえるように喫茶レクを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染対策に応じた外部との接触制限があり、行えていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の家族参加の調整（就労等の関係が難しく、今年度後半より入居者を会議へ参加して頂く形へ変更とする	運営推進会議は6月以降、対面で開催しているが、家族や地域包括支援センター職員等の参加がなく、職員のみで開催になっているため、利用者に参加をしてもらっている。家族には、運営推進会議の報告書送付時に意見を求めているが、意見や提案等は特にない。以前は毎月のように家族会を開催していたが、現在は、利用者の入れ替わりや、家族が就労で忙しくしていたり、後見人がつく利用者が増えた事もあって、以前に比べて、運営推進会議への参加が難しくなっている。	これまでも様々な機会を捉え、家族に対して運営推進会議への参加を要請されておられますが、家族の就労や後見人の増加により実現困難な状況があります。今後もオンラインや、書面開催の実施を試みる等して、家族等に参加を呼びかけ、運営に関する意見を頂く機会を設けられることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケアプラザなど居宅介護支援事業所のケアマネとは、事業所情報をはじめ積極的連絡を行った	事業所の空き情報等で地域の居宅介護支援事業所のケアマネジャーと連携を取っている。今後は、グループホーム連絡会や、行政主催の研修等への参加や、地域包括支援センターとの連携を強化していきたいと考えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や虐待は、法人の理念、ホームの理念に反する事であることを理解し、取り組んでいる。委員会の立ち上げ、動画による研修なども行っている。	身体拘束適正化検討委員会は、各ユニットの職員（交代で全員参加）、管理者とリーダーが参加をして3ヶ月ごとに開催している。身体拘束をしないケアの実現に向け、不適切ケアのチェックリストを自己点検して、研修を実施している。職員が利用者としてスピーチロックを受ける体験実施して、各々の職員がスピーチロックの際、利用者はどのような気持ちになるかの気づきに繋げている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についての資料いつでも閲覧出来るようになっている。不適切なケアの根本として、自主動画を撮り研修材料として使用し理解を深めている	虐待防止委員会は、身体拘束適正化委員会と同時開催している。委員会で24時間シートを使い、利用者個人の思いや意向について思いを馳せ、職員が自分主体に考えるのではなく、利用者の立場になって考えるようにと管理者は伝えている。職員は、業務についてはリーダーに、プライベートや人間関係については管理者に相談している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の知識を深める努力をしている。また事務所に地域権利擁護事業や成年後見人制度の資料を職員がいつでも見られるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の事前説明を必ず行い契約書、重要事項説明書を渡している。ホームの理念等を理解して頂いてからの契約としている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	感染予防対策で家族会開催など直接のご意見を聞く機会が少ないも、お電話やオンライン、メールなどで意見を伺い改善に繋げている。イベントを通じた家族会再開の予定（12月に1度開催）	現在、面会は、事前予約制、15分間程度、場所を居室・玄関と制限している。中には制限時間を過ぎる方もいるが、柔軟に対応している。家族との連絡ツールを複数用意して、家族の都合に合わせて、出来るかぎり、多くの家族とコミュニケーションを取りたいと考えている。ほとんどの家族とは、メールでやりとりしているが、電話連絡の方もいる。介護計画の更新時にはメールに介護計画書を添付し、確認をしてもらい、後に意見や希望について伺っている。家族に送付している紙媒体の「わかたけ便り」に利用者の様子を上げているインスタグラムのQRコードを掲載している、多くの家族からはインスタグラムを見ているとの報告を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に意見を聞いてもらえる環境が整っており、必要に応じてカンファレンスを実施している。	職員の意見や提案は、申し送りノートや委員会の時に話し合っている。また管理者やリーダーと個別に話をする際にも伝えている。今年度は、ケアプラン更新時のケアプランの記録方法を簡素化したらどうかとの提案があった。看取り対象の利用者がいる時には、特に様々な意見が出ている。	委員会やケアカンファレンスでは、職員による話し合いは行われていますが、運営や業務に関する意見交換をする機会がありません。定期的に、非常勤職員を含めたスタッフミーティングを開かれることを期待します。
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面接の他、半年に1回職員の成果を評価し管理者と面談を行う取り組みがある。また職員の事情に極力配慮した勤務を組むようにしている	法人のキャリアパス制度が整備され、勤務の成果に応じて人事考課に繋がっている。職員は、法人によって年2回実施しているストレスチェックを受けられるほか、今年度、新たに設置された「心の相談室」に、事業所を通さずに相談ができ、その後、産業医から疾病による時短勤務を提案されるケースもある。管理者は事務室にお菓子類を置き、職員がお菓子を食べながら、管理者に気軽に話をできる環境を作って、職員の気分転換やストレスの軽減に努めている。またリビングの一角にある和室を職員は休憩室として利用しており、横になって休むこともできる。ボーナス支給時には、ボーナス支給がない非常勤職員にハンカチ等のギフトを贈り、労っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成には法人全体で力を入れている。管理者・リーダー・中堅・新人等段階別での研修を実施している。スキルアップを目指した外部研修への参加も積極的に行っている	職員は、毎年、キャリアパスに基づき、目標設定し、自己評価をして管理者と個人面談を行っている。資格取得した職員にはお祝い金や資格手当が支給される。また永年勤続者（15年、20年、25年）にはお祝い金が支給される。役職を目指す事を望まない職員には、得意な事を生かした業務を担ってもらおう事とし、予算をつけ、イベントの企画・準備・実施の一斉を任せている。お菓子作りが得意な職員は、利用者の誕生日やクリスマス会のケーキや喫茶レク等のお菓子作りに腕を振るっている。また、アロママッサージやネイルアートが得意な職員は、利用者にマッサージやネイルを施し、喜ばれている。管理者は、職員各々の個性や特性を生かせる環境作りに努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内外の研修の場や、他のホームとの交換研修、専門学校実習生を受け入れを行い、サービス向上に取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人との面談を設定しており、本人の希望や不安、何を必要とされているか伺っている。本人や家族の意見、意思はケアプランに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談、見学や入居相談時から家族の意見をしっかりと聴くことに努めている。家族に合わせて、個別に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方の現在の状態や環境、経済面も含め、どのような支援をすればよいかを考えながら応じている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの理念に沿って、ご入居者主体の支援を行っている。特に様々な心理行動症状を認知症が原因と決めつけず、どのような要因があるのか理解するよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	接遇に注意し、専門的な立場や求められているスキルを發揮しながら、家族と喜びを共に共有できる関係作りを行っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染5類移行の面会は、過度な感染対策ではなく気軽に面会が出来る様支援を行っている	現役時代の同僚が誕生日のお祝いに訪れる方や、友人からの電話がかかる方、知人から年賀状が届く方がいる。携帯電話を所持している方が3名いて、操作などの支援をしている。長年の習慣で、毎朝、コーヒーを豆から挽いて飲む方や新聞（朝・夕刊）を購読して、切り抜きをし、自らの本を出版する事を目標にしている方もいる。また化粧水をつけたり、写真を撮る時に眉を描く方もいる。居室に冷蔵庫を持ち込み、好みの梅干しや、チョコレートを保管し、楽しむ方もいる。事業所での生活が長くなるにつれ、毎週のように訪問する医師や看護師、歯科衛生士が馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の過ごしやすい環境を整えると共に、食事の席や日々の生活空間にストレスがかからないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後でも近隣にお住まいの方などは、日常的に挨拶や世間話などを行いながら、状況に応じてご相談にのっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	理念に沿って、家族様等からの事前確認に加え、日常の関わりの中から思いや意向を把握できるよう努めている。困難な場合は理念に立ち返り、本人様の立場となりケアを実施している。	利用者は、職員と1対1になった時に不安を口にする事もある。大半の方が、話をする事で心が落ち着かれる。また分からなくなってしまう事や、忘れてしまう事は、認知症の症状のなかのひとつなので仕方がない事だと伝えると納得される。意向の表出が難しい方は、仕草や表情の変化等で推察している。管理者は、職員に、利用者が看取り期となってから、意向の把握に慌てないように、普段から積極的に情報を収集するようにと伝えている。汲み取った思いや意向は、申し送りノートに記入するほか、隙間の時間をとらえて職員間で話し合っ共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から、安心して生活出来るよう生活歴やサービス利用の経緯等の情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事・排泄・睡眠・入浴状況等を個別に記録し、そこから得た情報をアセスメントすることで現状の把握をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	理念のもと、日々職員で入居者主体の生活について話し合いをしている。家族とも相談しながらケアプランを作成している。	理念に沿って利用者の思いを汲み取った介護計画を作成している。新規の介護計画は、1カ月間、生活の中で様子を観察して、カンファレンスを行い、見直している。通常は、短期目標6カ月、長期目標を1年で見直している。居室担当制を取り、アセスメントやモニタリングに参加している。カンファレンスに当日参加できない職員には、事前に意見を聴取している。協力医（福澤クリニック）が参加をするカンファレンスを季節ごとに行い、医師の意向を介護計画に反映している。また理学療法士の提案を反映させることもある。週間サービス表にサービス内容を添付し、介護記録と連動させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は個別に記載している。職員は記録と申し送りやカンファレンスで情報を共有し、実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内との連携を持ち、入居者の生活が困らないように対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部来訪が難しいので、DVDや動画サイトなどを活用し余暇活動を行っている。また、毎月イベントを企画し、一緒に準備をしたりして参加する楽しみを工夫している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人のかかりつけ医に継続して利用できる支援以外に、利用したい医療や往診利用の支援を行っている。	2つの協力医療機関（内科）の訪問診療を利用者全員が受診している。専門医は、家族対応で外部医療機関を受診している。今年度、閉院に伴う歯科医の交代があり、今まで契約していた利用者には、家族の不安がないようにと、新たにレントゲンを撮る対応があった。歯科衛生士は以前からの方が継続して口腔ケアに来所している。法人の訪問看護師が週1回来所し、利用者の健康管理をしている。訪問看護師とはLINEで情報共有もできている。また法人の理学療法士が3カ月ごとに来所し、利用者の動作や関節可動域の確認をしている。また毎日の生活にリハビリを取り入れる提案や、介助の際の職員の立ち位置等のアドバイスをしてくれる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連携をはかり、医療連携体制加算を算定している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供書を使用して情報提供を行っている。また、家族と連絡を取ることや、感染症対策があるが、可能な限り病院へ面会を行い状態の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期対応指針をご家族に説明している。また本人の変化に合わせて家族、かかりつけ医と話し合いの場を持っている	契約時に重度化と終末期対応の事業所の方針を説明している。医師が終末期と判断した際には、医師を交え、家族に再度意思確認をしている。今年度は1名の方の看取りをしている。看取り後は、デスカンファレンスを行い、今後に生かすようにしている。協力医からコロナ禍で実現していなかった看取り研修の提案があり、今後実施を予定をしている。安全衛生委員会の項目に、ケアの質の向上が入っているが、新たに看取りの項目を加える事を検討している。利用者は、亡くなられた方に合掌し、自然な形でお別れをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者、看護師に連絡をし、対応指示を仰いでいる		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルに沿って対策に取り組んでいる。地域の防災訓練にも参加をしている。今後、地域住民協力による避難訓練実施のため自治会担当者の方と相談を進めている。	今年度は8月に、夜勤者1名で、ベッド上の利用者をマットごと、避難させる事を想定した訓練を行った。避難訓練の様子を動画に撮り、振り返りをして課題を洗い出し次に繋げている。3月には消防署立ち合いで消火器の使い方などを含めた訓練を予定している。防災委員は非常勤職員が担当し、備蓄管理も担っている。水害の際は、同法人の「わかたけ西菅田グループホーム」に車で避難を予定している。次年度は、BCPに絡めた訓練を実施する意向がある。防寒シート等は職員分も含めて用意している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りの時には利用者の名前を居室番号やイニシャルで伏せたり、介助時に扉を閉めておく等のプライバシーに配慮している。又、最初から利用者の発言や行動を否定せず、まずは「受け入れる」ところからケアを始めている。	利用者の呼称は、基本名字にさん付けだが、利用者の反応によっては旧姓で呼ぶ事もある。利用者の尊厳やプライバシーに配慮し、申し送り時の呼称はイニシャルとし、入室の際は、利用者の許可を得てから、またはノックをしてからとしている。トイレ誘導は、周囲に聞こえないように小声で声掛けしている。利用者との付き合いが長くなるにつれ、職員の対応が馴れ馴れしくならないように、管理者は、節度を持ってケアに当たるように指導し、定期的にユニットの異動を行っている。職員間や同法人の「わかたけ西菅田グループホーム」とはLINE WORKSでやり取りをしている。パソコンはパスワード管理、個人情報を含む書類は、事務所内のキャビネットに施錠管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が安心して自身の想いを伝えられる様に、職員が日頃から「聴く」姿勢を持って待つ事や問いかける事等を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が拘っている日課は大きな制限は設けず、ケアプランにも反映し「自立支援」の観点でも取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者自身が拘っている衣類は積極的に取り入れている。又、季節観や体格に合う様、必要に応じてご家族様にご購入や持参依頼をする等の支援も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節毎の旬の食材を使ったり、職員手作りによるスイーツの提供もしている。又、広い意味で回想法も取り入れた内容として、喫茶店を模したイベントやお寿司等で5感を使って楽しめるイベントも開催している。	ムース食を含めて主菜、副菜は委託業者が配達したものを湯煎で温め提供している。おかずを松花堂弁当風に盛り付けて提供する事もある。おやつは、ムース食の方に向けて、皆と一緒に食べられるようにゼリーやプリンのようなものを提供している。またユニット毎に職員の得意な事や季節の行事にちなんだレクリエーションを企画して、外食気分を味わってもらっている。スイーツ作りの得意な職員が作るケーキに、豆から挽いたコーヒーを提供する喫茶店を模したレクや、母の日のケーキ、夏にはゼリーバイキング等を取り入れた食レクを行い、食を楽しむ支援している。また、父の日等に、職員が板前に扮した回転ずし店や居酒屋を模したレクを行い、利用者から好評を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下や直近の状態に合わせて、臨機応変に食形態を変更しながら提供している。又、医療機関や専門職とも連携し、必要に応じてアドバイスを頂きながらチームケアとして取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施に加えて、連携している歯科医の歯科衛生による口腔ケアも週1回実施している。又、必要に応じて歯科医師による治療も実施されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	基本はトイレで用を足して頂く事を前提とし、自力で行けなくなってしまう利用者にも職員介助の仕方を変更したり福祉機器を活用する事で工夫して実施している。	布パンツを使用して自分の意思でトイレで排泄できる方が3名いる。オムツを使用し、全介助が必要な方も3名いる。その他の方は、定時誘導や仕草で判断して誘導している。立ち上がりに介護ロボットのハルを使っている方もいる。日中は、トイレでの排泄を基本にしており、職員2名で介助をしている。全てのトイレに便器の蓋が自動開閉する装置を備えている。便器の前に立つと蓋が自動に開く事でトイレの認識を持てるようになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	足腰が丈夫な方には日課として身体を動かす機会を設けている。又、活動量が低下して便秘傾向の方には、乳製品の摂取や下剤を適宜調整しながら促している。	/	
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴剤の使用や洗身時に足浴をする等、身体が温まり安心して入浴できる環境を提供している。	入浴は週2回を基本にして、午前中に2～3名の方を支援している。同性介助を希望する方には配慮するなど、出来るかぎり、利用者の負担が少ない対応を心掛けている。浴槽の湯や、足ふきマットは感染症予防対策で利用者ごとに交換している。季節の柚子湯や菖蒲湯を楽しんだり、足浴には入浴剤を入れ、色や香りを楽しんでもらう等の工夫をしている。肌荒れ対策に湯上がり後にはしっかり保湿剤を塗布している。浴室暖房機や脱衣場の床暖房、ヒーター等を備え、ヒートショック対策をしている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日課がある方は一区切り着いてから、就寝出来る様に促している。不安感が強い方には時には職員が眠くなるまで一緒にリビングで過ごす等の安心して眠りにつけるケアを実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から提供されている薬情に記載されている副作用には目を通している。又、事前に医療機関や薬局からのアドバイスがあった場合には記録に収め、職員間でも周知出来る様な仕組みがある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理を必要とする食事イベントを企画し、昔を思い出してもらいながら家事支援を行う。また男性には衣類や新聞などを畳んで頂き生活にメリハリを意識的にもってもらうようにした		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の状態を考慮しながら、施設内外気浴を楽しめるように支援している。ご入居者からは外出の希望があまりないが、意欲を引き出す言葉かけなど工夫をしている	今年度は、家族と一緒に墓参りや法事に出かけたり、お正月には外泊を楽しむ方もいた。散歩を兼ねて、朝食用のパンや、おやつの大判焼を職員と一緒に買いに行くこともあるが、事業所周辺が散歩にあまり適していないため、広い庭を周回したり、業者が季節毎に植え替える花々を見ながら外気浴を楽しんでいる。日産スタジアムでサッカーの試合がある時は、煌々と光るライトを眺めて楽しんでいる。今後はドライブレク等の機会を増やす予定にしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を利用する機会はほとんどないが、長年の習慣、経験から金銭を大切にしたい想いを大切に汲み取るケアを行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人、からの手紙は自由。これまでの関係性を継続出来る支援をしている。居室には電話が設置可能。必要があれば、事務室の電話もとっている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや音楽の音、職員の声が不快にならないように意識を持っている。掃除の実施やリビングの明るさ温度、湿度にも気を配っている	明るい日差しが射し込むリビングは、加湿器や空気清浄機を設置し、温湿度を調整して、定期的な換気とともに感染症対策をしている。年2回、専門業者による定期清掃に加え、毎日の掃除では、職員と一緒にできる事を手伝う利用者もいる。リビングの大画面で、昭和の歌謡番組や時代劇の動画配信を楽しんでいる。音楽療法士による音楽療法で太鼓を叩いたり、歌ったりもしている。職員は、フロア中央に備えたアイランドキッチンで、炊事をしながら、利用者の様子を見守っている。リビングの壁には利用者が職員と一緒に制作した雛祭りの壁面飾りや、利用者の書道の作品を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内でも、テレビ前、テラス、キッチン前と、個々に好きな場所で好きな事をしながら過ごせるよう行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前に使用されていた馴染みの家具や大切にされてきた物を持参して頂いている。	居室には、洗面台が設置され、エアコン、照明、クローゼットが備え付けられている。ベッドはレンタルを利用する方もいる。利用者は自宅から使い慣れた椅子や机などの家具や位牌やテレビ、時計などの生活用品等を持ち込んでいる。冷蔵庫を持ち込んで、利用者の好みの食品を時折差し入れている家族がいる。犬を飼っていた方の家族が、居室の壁に犬のポスターを飾る事もある。整理整頓の習慣がある方は、日中、居室でタオルや衣類を畳んで過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じ張り紙を活用し、自身で生活行動が出来る事が増やせる様にしている。また、ベッド柵や手すりなど、ご家族と話し合いその方にあった環境を整えている。		

事業所名	グループホームわかたけ小机
ユニット名	太陽ユニット

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
	○	3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
	○	4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
	○	3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
	○	3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしく輝いて暮らすホームを目指す」理念を念頭に、各ユニット毎に1年間を通じて「自分らしく輝くとは何か」をテーマに、ユニット目標を立てケア支援をしている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染予防対策のため、外出や地域イベント参加は見送っていたが、コロナ感染5類後は地域スーパーへの買い物回数を増やすなど行った		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染対策に応じた外部との接触制限があり、行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の家族参加の調整（就労等の関係が難しく、今年度後半より入居者を会議へ参加して頂く形へ変更とする		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケアプラザなど居宅介護支援事業所のケアマネとは、事業所情報をはじめ積極的連絡を行った		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や虐待は、法人の理念、ホームの理念に反する事であることを理解し、取り組んでいる。委員会の立ち上げ、動画による研修なども行っている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についての資料いつでも閲覧出来るようになっている。不適切なケアの見本として、自主動画を撮り研修材料として使用し理解を深めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の知識を深める努力をしている。また事務所に地域権利擁護事業や成年後見人制度の資料を職員がいつでも見られるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の事前説明を必ず行い契約書、重要事項説明書を渡している。ホームの理念等を理解して頂いてからの契約としている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	感染予防対策で家族会開催など直接のご意見を聞く機会が少ないも、お電話やオンライン、メールなどで意見を伺い改善に繋げている。イベントを通じた家族会再開の予定（12月に1度開催）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に意見を聞いてもらえる環境が整っており、必要に応じてカンファレンスを実施している。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面接の他、半年に1回職員の成果を評価し管理者と面談を行う取り組みがある。また職員の事情に極力配慮した勤務を組むようにしている		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成には法人全体で力を入れている。管理者・リーダー・中堅・新人等段階別での研修を実施している。スキルアップを目指した外部研修への参加も積極的に行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内外の研修の場や、他のホームとの交換研修、専門学校実習生を受け入れを行い、サービス向上に取り組んでいる		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人との面談を設定しており、本人の希望や不安、何を必要とされているか伺っている。本人や家族の意見、意思是ケアプランに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談、見学や入居相談時から家族の意見をしっかり聴くことに努めている。家族に合わせて、個別に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方の現在の状態や環境、経済面も含め、どのような支援をすればよいかを考えながら応じている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの理念に沿って、ご入居者主体の支援を行っている。特に様々な心理行動症状を認知症が原因と決めつけず、どのような要因があるのか理解するよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	接遇に注意し、専門的な立場や求められているスキルを發揮しながら、家族と喜びを共に共有できる関係作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染5類移行の面会は、過度な感染対策ではなく気軽に面会が出来る様支援を行っている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の過ごしやすい環境を整えると共に、食事の席や日々の生活空間にストレスがかからないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後でも近隣にお住まいの方などは、日常的に挨拶や世間話などを行いながら、状況に応じご相談にのっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	理念に沿って、家族様等からの事前確認に加え、日常の関わりの中から思いや意向を把握できるよう努めている。困難な場合は理念に立ち返り、本人様の立場となりケアを実施している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から、安心して生活出来るよう生活歴やサービス利用の経緯等の情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事・排泄・睡眠・入浴状況等を個別に記録し、そこから得た情報をアセスメントすることで現状の把握をしている。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	理念のもと、日々職員で入居者主体の生活について話し合いをしている。家族とも相談しながらケアプランを作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は個別に記載している。職員は記録と申し送りやカンファレンスで情報を共有し、実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内との連携を持ち、入居者の生活が困らないように対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部来訪が難しいので、DVDや動画サイトなどを活用し余暇活動を行っている。また、毎月イベントを企画し、一緒に準備をしたりして参加する楽しみを工夫している		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人のかかりつけ医に継続して利用できる支援以外に、利用したい医療や往診利用の支援を行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連携をはかり、医療連携体制加算を算定している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供書を使用して情報提供を行っている。また、家族と連絡を取ることや、感染症対策があるが、可能な限り病院へ面会を行い状態の把握に努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期対応指針をご家族に説明している。また本人の変化に合わせて家族、かかりつけ医と話し合いの場を持っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者、看護師に連絡をし、対応指示を仰いでいる		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルに沿って対策に取り組んでいる。地域の防災訓練にも参加をしている。今後、地域住民協力による避難訓練実施のため自治会担当者の方と相談を進めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りの時には利用者の名前を居室番号やイニシャルで伏せたり、介助時に扉を閉めておく等のプライバシーに配慮している。又、最初から利用者の発言や行動を否定せず、まずは「受け入れる」ところからケアを始めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が安心して自身の想いを伝えられる様に、職員が日頃から「聴く」姿勢を持って待つ事や問いかける事等を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が拘っている日課は大きな制限は設けず、ケアプランにも反映し「自立支援」の観点でも取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者自身が拘っている衣類は積極的に取り入れている。又、季節観や体格に合う様、必要に応じてご家族様にご購入や持参依頼をする等の支援も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節毎の旬の食材を使ったり、職員手作りによるスイーツの提供もしている。又、広い意味で回想法も取り入れた内容として、喫茶店を模したイベントやお寿司等で5感を使って楽しめるイベントも開催している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下や直近の状態に合わせて、臨機応変に食形態を変更しながら提供している。又、医療機関や専門職とも連携し、必要に応じてアドバイスを頂きながらチームケアとして取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施に加えて、連携している歯科医の歯科衛生による口腔ケアも週1回実施している。又、必要に応じて歯科医師による治療も実施されている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	基本はトイレで用を足して頂く事を前提とし、自力で行けなくなってしまった利用者にも職員介助の仕方を変更したり福祉機器を活用する事で工夫して実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	足腰が丈夫な方には日課として身体を動かす機会を設けている。又、活動量が低下して便秘傾向の方には、乳製品の摂取や下剤を適宜調整しながら促している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴剤の使用や洗身時に足浴をする等、身体が温まり安心して入浴できる環境を提供している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日課がある方は一区切り着いてから、就寝出来る様に促している。不安感が強い方には時には職員が眠くなるまで一緒にリビングで過ごす等の安心して眠りにつけるケアを実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から提供されている薬情に記載されている副作用には目を通している。又、事前に医療機関や薬局からのアドバイスがあった場合には記録に収め、職員間でも周知出来る様な仕組みがある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理を必要とする食事イベントを企画し、昔を思い出してもらいながら家事支援を行う。また男性には衣類や新聞などを畳んで頂き生活にメリハリを意識的にもってもらうようにした		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の状態を考慮しながら、施設内外気浴を楽しめるように支援している。ご入居者からは外出の希望があまりないが、意欲を引き出す言葉かけなど工夫をしている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を利用する機会はほとんどないが、長年の習慣、経験から金銭を大切にしたい想いを大切に汲み取るケアを行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人、からの手紙は自由。これまでの関係性を継続出来る支援をしている。居室には電話が設置可能。必要があれば、事務室の電話もとっており。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや音楽の音、職員の声が不快とならないように意識を持っている。掃除の実施やリビングの明るさ温度、湿度にも気を配っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内でも、テレビ前、テラス、キッチン前と、個々に好きな場所で好きな事をしながら過ごせるよう行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前に使用されていた馴染みの家具や大切にされてきた物を持参して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じ張り紙を活用し、自身で生活行動が出来る事が増やせる様にしている。また、ベッド柵や手すりなど、ご家族と話し合いその方にあった環境を整えている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 わかたけ小机  
 作成日 2024年 4月23日

【目標達成計画】 2ユニット共通

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	16	【問題点】 自然災害の事前知識の習得と訓練 【課題】 ・訓練の仕組みづくり ・地域（消防団）との関係づくり	【通常訓練】 年2回（変更なし） 【水害訓練】 年1回（変更なし） 【地震訓練】 年2回 （卓上訓練追加） ※非常食を用いた食事提供を含む	① 年間スケジュールにて訓練日を事前に決定 ② 防災・災害委員会主要メンバーの他、全職員が関わるよう担当役割を決める ③ BCP勉強会を年2回実施する	12ヶ月 （6ヶ月毎に実施）
2	3	【問題点】 GH内の参加者のみの会議となった 【課題】 代理人からのメンバー選出が出来ない	・入居者の参加は必須とする ・家族参加のイベントと運営推進会議を同日開催にする	① イベントスケジュール表に、家族会と運営推進会議も記載する ② 家族にも内訳を説明し協力を仰ぐ	12ヶ月 （2ヶ月毎に実施）
3	18 19	【問題点】 過ごしやすい環境を整える 【課題】 ・個々の居室の環境整備が不十分 ・常に清潔を保つ為の意識作りが欠けている	・入居者にとっては「家」であることを意識して環境整備行う ・家族アンケートの意見を共有し、改善に努める	① ケアの質向上委員会で家族アンケート（外部評価）を議題で話し、改善に取り組む	6ヶ月 随時
4					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。